

開門は漁場環境の回復を促しますが、 海域への悪影響の心配はありません！

2009年6月 有明海漁民・市民ネットワーク

諫早の潮受堤防排水門からは現在、汚濁水が海に一方的に排水されています。これに対して、開門して調整池に海水を導入すれば、第一に調整池の濁りを数日の間に急速に解消し、第二に調整池内に魚介類の産卵揺籃場や水質浄化場としての干潟を再生させ、第三に諫早湾や有明海の潮流を速くするので、赤潮や貧酸素水塊の発生を抑制することが期待できます。濁りが消えるまでの開門初期の数日間は、短期開門調査時よりも更に少なめの海水を導入する方法をとりますから、汚濁水の排水量は下表のように現在よりも少なくて済みますし、その後は海水が排水門を出入りするだけのことになっていきます。

小規模開門を継続して調整池の底質も十分に改善させた後、また調整池背後地の防災対策工事の進捗状況に合わせながら、徐々に海水導入量と排水量を増やしていくほどに、今ある諫干の悪影響は減少していくことでしょう。

